

## 第6回 社会保障・税に関わる番号制度に関する検討会 議事要旨

日時：平成22年6月29日（火） 9：30～9：45

場所：官邸3階南会議室

出席者：菅 直人 内閣総理大臣

荒井 聡 国家戦略担当大臣 兼 内閣府特命担当大臣（経済財政政策）

原口 一博 総務大臣

野田 佳彦 財務大臣

長妻 昭 厚生労働大臣

玄葉光一郎 公務員制度改革担当大臣

古川 元久 内閣官房副長官

渡辺 周 総務副大臣

平岡 秀夫 国家戦略室長

### 1. 菅総理から冒頭挨拶

- この会合の前に、新年金制度の基本原則をとりまとめたところであるが、「強い社会保障」を実現するためには、新年金制度と合わせ、番号制度の導入も不可欠。
- 消費税の逆進性を緩和する選択肢の1つである「給付付き税額控除」を導入する場合には、所得をより正確に把握することが必要であり、その意味でも番号制度の検討は急がれるべき。
- 関係各省におかれては、選択肢とメリット・デメリットなどについて検討いただき、国家戦略室を中心に今回の中間とりまとめを整理していただいた。本日、これを公表し、まずは、パブコメなどを通じて、国民の皆様の御意見を伺いたいと思っている。その上で、年内を目処に一定の結論を出していきたい。
- 私たちが現在議論している社会保障・税に関わる番号制度については、ともすれば行政のための制度であると誤解されがちであるが、「国民本位の制度」であるということを、しっかり国民の皆様に納得いただけるものにしなければならない。すなわち、国民自らが情報活用をコントロールできるようにするなど個人情報をしっかり保護する工夫を行いつつ、きめ細やかな社会保障や国民の利便性の向上など国民の視点に立った利用につなげていきたいと考えている。そのような制度の実現に向け、引き続きご協力をお願いしたい。

### 2. 古川内閣官房副長官から資料の説明

- まず1枚目は、選択肢の全体像を示している。ご覧の通り、選択肢は①利用範囲、②制度設計、③プライバシー保護、の3つに分けて示している。2枚目から4枚目は各選択肢の内容や比較を示している。5枚目は有識者ヒアリングにて出た、選択肢に関係すると思われる意見の抜粋となっている。6枚目は導入費用と期間についての試算結果を示してい

る。なお、制度設計が決まっていない段階での試算ですので、非常に粗々のものであり、制度設計次第では大きく変わる可能性があることにご留意いただきたい。

### 3. 意見交換

- 今後、中間とりまとめについては、パブリックコメントによって国民の皆様へお示しして意見をいただき、それを踏まえて検討していくことになる。
- 本件については、国民運動的に進めていく必要がある。ICT社会において、国民は、自分の情報が誰かにストックされ、知らない間に使われてしまうのではないかという不安を抱えている。だからこそ、自己の情報を管理するための仕組みが必要。
- 番号を国民に振り分けるといふ息苦しさを感じさせないように、管理する側のメリットではなく、国民にとってどのようなメリットがあるのか、自分の情報に自分でアクセスできるということも含めて、一緒に考えていきたい。これまでも、いくつかの内閣が番号制度の導入に頓挫してきたということもあり、丁寧に対応していければと思っている。
- 基本的に、日本の少子・高齢化モデルを克服するというところで、年金も含め、パッケージとして考えていくべきものであり、厚生労働省の方でも粗々パッケージの検討を進めているところ。

### 4. 平岡国家戦略室長から終わりの挨拶

- 本検討会の中間とりまとめについては、案のとおりでご了承いただいた。今後、この選択肢について、30日程度パブコメを行っていく予定である。また、今後の検討体制については、これから総理のご指示も踏まえながら、検討していくこととさせていただきます。

～以上～